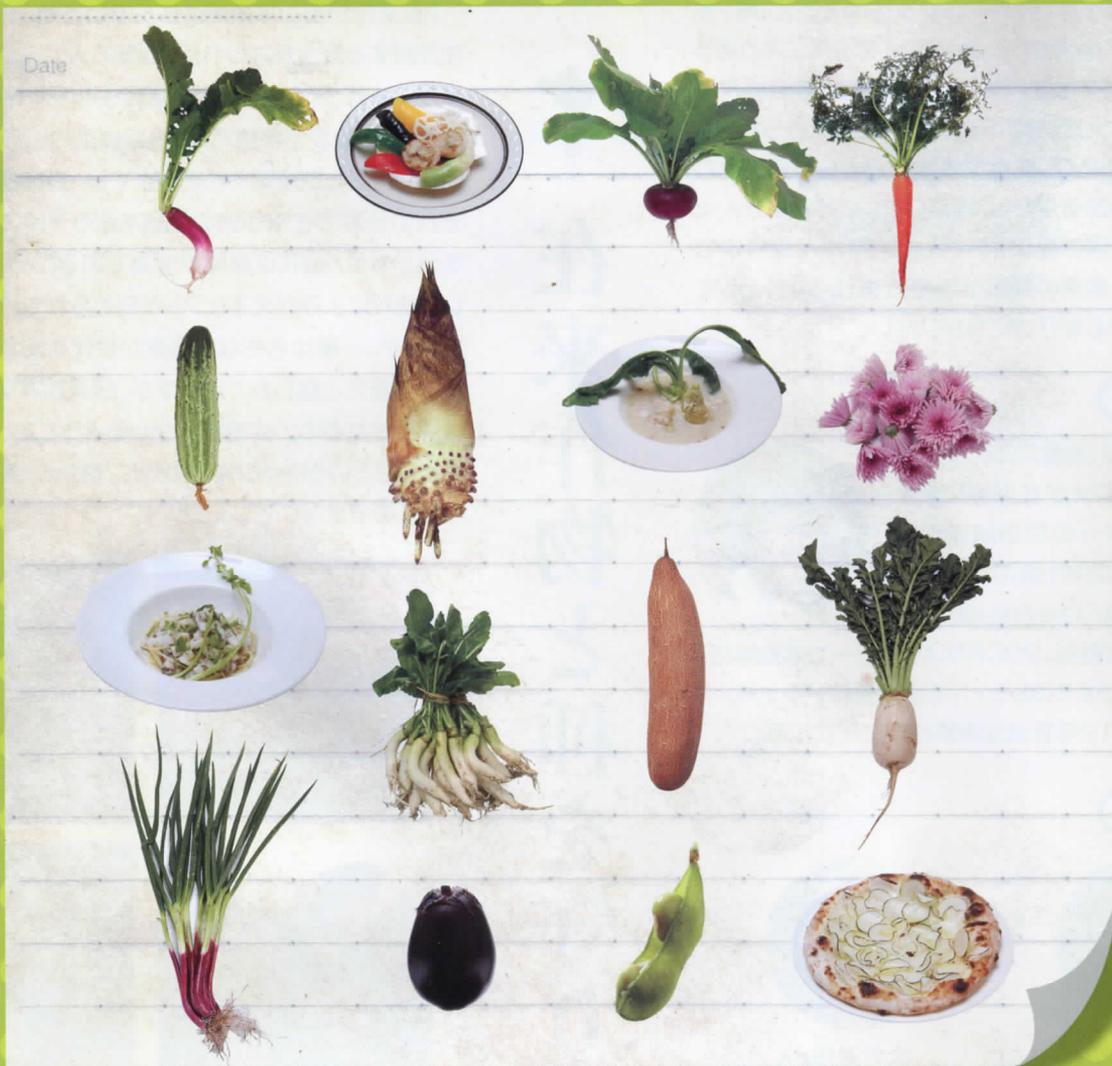


おいしくて、そして心に効くドキュメンタリー映画&トーク

香港国際映画祭2012 / 山形国際ドキュメンタリー映画祭2011 正式出品



八王子
上映会

～種をつなぐ人・食・地域農業の未来へ～

よみがえりのレシピ

出演：江頭 宏昌、奥田 政行、在来作物を守り継ぐ人々 / プロデューサー：高橋 卓也 / 監督・編集：渡辺 智史

撮影：堀田 泰寛 / 音楽：鈴木 治行 / 整音：石寺 健一

2011年 / 日本 / HD/95分 / 制作・配給：映画「よみがえりのレシピ」製作委員会 / 宣伝：スリーピン

協力：東北芸術工科大学・東北文化研究センター・山形在来作物研究所 / 助成：文化芸術振興費補助金 / 写真提供：東海林 晴哉

渡辺智史監督
来たる!

ゲストトーク

渡辺智史監督 × 福島秀史さん (多摩・八王子江戸東京野菜研究会 代表) × 大竹道茂さん (江戸東京野菜コンシェルジュ協会 会長)

2016.2.27(土) 13:00開場 13:30開演 (終了予定16:30)

北野市民センターホール 京王線「北野」駅北口より1分
北野タウンビル8F

前売1000円 当日1200円

〈主催〉八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」 (八王子市東町3-4アマダステーション気付)
電話 070-5567-0168 FAX 020-4624-2381 メール manabi.tsunagu@gmail.com
ホームページ www.gakkou.org

〈共催〉多摩・八王子江戸東京野菜研究会 <https://www.facebook.com/tamahachi.edotokyo>

〈協力〉NPO法人江戸東京野菜コンシェルジュ協会 <https://www.edo831.tokyo/>

「よみがえりのレシピ」公式ホームページ <http://y-recipe.net/>



平成27年度八王子市市民企画事業補助金

作品介绍

在来作物は何十年、何百年という世代を超え、味、香り、手触り、さらに栽培方法、調理方法を現代にありありと伝える「生きた文化財」である。しかし高度経済成長の時代、大量生産、大量消費に適応できず、忘れ去られてしまった。いまふたたび、貴重な地域資源として見直される在来作物の価値を活かし、継承していこうとする人々の取り組みを克明に追ったドキュメンタリー。世界中で起きている食や農業の問題への処方箋(レシピ)としても、広く人びとの心を打つにちがいない。

渡辺智史監督

1981年、山形県鶴岡市に生まれる。東北芸術工科大学在学中に東北文化研究センターの民俗映像の制作に参加。2002年「関川のしな織り」、2006年「An Die Freude 歓喜を歌う」等の撮影担当。2008年よりフリーで活動開始。2011年「よみがえりのレシピ」で山形国際ドキュメンタリー映画祭、2012年香港国際映画祭に正式出品。



トークゲスト



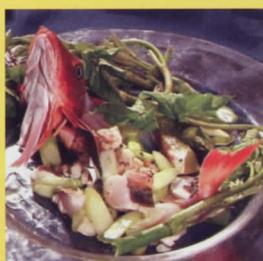
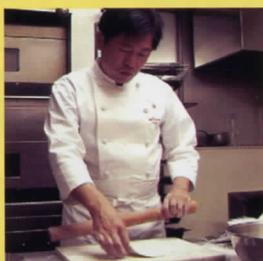
福島秀史さん

多摩・八王子江戸東京野菜研究会 代表



大竹道茂さん

江戸東京野菜コンシェルジュ協会 会長



まなび・つなぐ広場とは?

「知る一つながる一学ぶ一動き出す。未来の人たちに手渡せる社会を選びとろう」をモットーにさまざまな講座やイベント、ワークショップを開催しています。集まる人たちでつって交流や議論、表現も大切にする広場です。企画の提案やよびかけ歓迎。お気軽にご参加ください。

*本イベントは、「地域から考える持続可能な食と農〜つって、食べて語り合うコミュニティ・キッチン」講座の一環として行われます。

監督の言葉より

「食文化が豊かな地域に住んでいても、その由来や希少性を理解する機会がなければ、地元の人であっても在来作物の価値には気づくことは少ないのかもしれない。実際に、この数十年間で30品目以上の山形県の在来作物が消失したことが確認されています。…研究者と料理人がそれぞれの分野で在来作物の価値を掘り下げ、食を楽しみ、喜びを分かち合う姿には農業が産業であることだけでなく文化として地域によみがえるヒントが秘められているのではないのでしょうか。…種は名もなき農家が世代を超えて伝えてきた人類の財産だと言われていますが、経済効率を優先する社会では評価されるのには時間がかかるようです。地域固有の食材を楽しむという日々の営みの先に、懐かしくも新しい未来の姿があるのではないのでしょうか。」



メッセージ

『よみがえりのレシピ』にはぼくたちの「懐かしい未来」のタネがいっぱい詰まっている。ローカルな場所から若者が発信する、このみずみずしい映画を、世界のすみずみの人々が待ちわびているにちがいない。

●辻 信一 (環境運動家、文化人類学者)

この美しい映画は、私の思いをみごとに代弁してくれた。地域のタネを大切にすることなしに、健やかで持続可能な未来の暮らしを実現することはできないのだ。

●ヘレナ・ノーバーク=ホッジ (映画「幸せの経済学」監督)

世界中でここでしか味わえない稀有なる野菜たちは、まさにスローフードの極み。タネも苗も買うのがあたり前の現代に、自らタネをとる誇り高い農家たちがぞろぞろ残り、これに惚れこむ若手監督までいた山形県、恐るべし!

●島村 菜津 (ノンフィクション作家)

山形県庄内に息づく固有種の野菜はその土地に何世代にも渡って生き続けてきた農民と自然との芸術品。一つ一つの野菜たちの愛しさ、はかなさ、美味しさが余すところなく風土と融合して映像化されている。在来種と共に生き守り育ててきた、一人ひとりのお顔の味と野菜の味をいっしょに味わえる映画。種が人の手から手へとつながって一皿に凝縮される感動!そして、その背後にある言葉では語り尽くせない故郷への愛情が押し寄せる

●鎌仲 ひとみ (ドキュメンタリー映画監督)



在来作物と種を守り継ぐ人々の物語

